

議会事務局の方針書

組織名	議会事務局
所属長名	佐藤 雅義

1. 組織の使命(ありたい姿)

議会事務局は、議会の補助機関として次のことを使命とする。

- ①「議会力」(地方自治体としての意思決定、執行機関の監視・評価、議会側からの政策提案など)が十分に発揮され、円滑な議会運営が図られるよう、「チーム横手市議会」として議員の職務を補佐する。
- ②「議会力」を高めるため、議会と市民の連携構築を図る。

2. 組織の抱える課題(現状)

- ①「市民から信頼され、より開かれた議会」であり続けるため、議会だよりやホームページ・SNS等を利用し、情報公開の取り組みをより一層推進しなければならない。また、議会報告会や市民との懇談会、中学生議会をさらに充実・発展させ、市民の声を政策に反映する取り組みを強化する必要がある。
- ②市議会が議事機関として政策判断や政策提案の面で一層役割を発揮するため、政策論議や議員間討議の活発化を図る。
- ③議員活動を行う上でタブレット端末は欠かせないものとなっているが、一方で情報過多により見過ごされる場合も少なくない。積極的かつ効率的に使用し、さらに円滑な議事運営と議員活動を推進する必要がある。
- ④議会基本条例の目標実現に向け、取り組みの進捗状況を検証しながら議会の改革を支援し続けるため、議会事務局職員の情報収集・調整・政策法務能力の向上など、不断のスキルアップが求められる。

3. 今年度の『スローガン』

進化し続ける議会を全力でサポートしよう

4. 今年度の方針

- ①議事機関としての機能強化とより開かれた議会
- ②情報収集・情報発信の充実と自ら改革する議会運営の推進
- ③議会と行政及び議会と市民のつなぎ役として、議会事務局職員のスキルアップ

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	議事機関としての機能強化とより開かれた議会
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「議会報告会」や「市民と議会の懇談会」など広聴活動の強化に努め、議会と市民の直接的な意見交換の場の充実を支援する。 ・政策判断・政策提案をするための議員間討議や常任委員会協議の充実・活発化を図る。 ・本会議、委員会審議の傍聴者増を目指す。
(2)	実現したい成果	情報収集・情報発信の充実と自ら改革する議会運営の推進
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・先進議会の事例を研究し、議会改革の推進を支援する。 ・タブレット端末の積極的活用により、議員活動の効率化を支援。 ・議会だより、横手かまくらFM放送、ホームページ、フェイスブック等の活用により、広報活動の充実と情報公開を推進。
(3)	実現したい成果	議会と行政及び議会と市民のつなぎ役として、議会事務局職員のスキルアップ
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・他市議会事務局との合同研修や研修機関の専門研修、事務局内研修により職員のスキルアップを図る。 ・全国の自治体から行政視察を積極的に受け入れ、自らの研鑽と市内消費拡大につなげる ・役職改選に当たり、スムーズな引継ぎを図る

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 9月議会定例会において実施した議長選挙で、議場で議長志願者による所信表明を実施。議会報告会は、地区会議等と共同で実施することし地区会議側に自主的に決めていただいたテーマのもとグループワークを中心に進める方向で開催準備中。市民と議会の懇談会については、館合地区つきの木会とともに開催済み。
- (2) 政務活動費の透明性を高めるため、支出基準の見直しと領収書の議会ホームページでの公開を実施済み。一般会計決算における条文及び歳入の審査について、総務文教分科会一括から所管分科会での実施に変更済み。また、議員研修と若者の政治参加推進を目的に、雄物川高校の1年生60人と共に「20年後の横手市」をテーマにグループワークの実施を準備中。広報広聴活動については、当初の予定どおり進捗している。
- (3) 毎朝の打合せ、議会毎の反省会、毎月の勉強会と、事務局内の意思疎通とスキルアップを図っている。議長選挙については、予定の時期から前倒しの実施となった。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

※各部局から常任委員会への説明のタイミングが本会議直前であることが多く、議員から説明が遅いとの声が寄せられる場合がある。スムーズな議会運営のためにも、当局と議会の懸け橋としての役割を強化したい。

- (1) 議会報告会は、特定の市民からの要望会ではなく幅広い意見を集め議員の政策提案に資する機会としたい。傍聴者増について、引き続き努力したい。また、議長選挙の反省点を副議長選挙に活かしたい。
- (2) 新議長が掲げる「チーム横手市議会」「議員間討議の活発化」「議会だよりモニターの設置」実現に向けた検討。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

(1) 議事機関としての機能強化とより開かれた議会について

- ・想定の時期よりも前倒しで行われた議長選挙であったが、議長志願者の議場での所信表明など新たな試みがあり、市民にとって議長選出の見える化が図られた。
- ・議会報告会・意見交換会ではグループ別対話を導入したことで質の向上につながり、参加者からも話しやすくなった等の意見が寄せられた。
- ・議会の傍聴を機に、学校へのゲストティーチャーの派遣や意見交換会の実施などの取り組みへと発展したことや、当初予定していなかった高校生との懇談会を実施することができたことは大きな成果であった。今後さらに市民の議会や政治への関心を高め、政治への参加促進、ひいては、議員のなり手不足解消に資する取り組みを推進する必要がある。
- ・市民との懇談会では少しずつではあるが、参加団体が増えていること、また、出された意見を市へ政策提言し、政策に反映されるなどの効果が見られた。広聴活動により集めた市民の意見を政策提案に反映する取り組み方法については、今後さらに充実させ、体系化していく必要がある。
- ・新議長の提案により、各常任委員会毎にテーマに沿った活動を展開していくこととなり、今後、委員が同じ方向を向いた活動ができると期待される。一方、政策判断にあたり議論を尽くす取り組みについてはさらに充実させる必要があるため、引き続き、議員間討議等の手法を支援したい。

(2) 情報収集・情報発信の充実と自ら改革する議会運営の推進について

- ・政務活動費に係る領収書等を公開したことは第一歩となったが、さらに、委員会会議録等の情報公開の在り方や各媒体を活用した議員・議会活動の見える化を推進していきたい。
- ・議会運営においては各定例会ごとに事務局内で振り返りを行っているが、改善が必要と思う事項については事務局側からも議会運営委員会等に相談・提案し、より理想的な議会運営、議会活動につなげていきたい。

(3) 議会と行政及び議会と市民のつなぎ役として、議会事務局職員のスキルアップについて

- ・正副議長選挙及び委員会改編の際にはスケジュール管理や綿密な打ち合わせ、前例・事例の調査研究、各種会議の開催支援に注力し、万全の態勢で臨むことができた。
- ・引き続き、その時々々のケースや不測の事態に最大最適の対応ができるよう、日頃から調査、事例研究、勉強会、研修会参加により知識の習得と対応力の向上に努めたい。